

記入日2025年10月28日

一般社団法人日本薬学生連盟

2026年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	鈴木憲子
立候補する役職	副会長外務理事
大学/学部/学科	北里大学/薬学部/薬学科
学年	3年
所属	薬学総合委員会、地域連携委員会、財務部
日本薬学生連盟での活動経歴	2025年6月 一般社団法人日本薬学生連盟入会 2025年7月 薬学総合委員会、地域連携委員会、財務部所属
立候補動機	私は本年6月に日本薬学生連盟に入会しました。そのため、活動歴はまだ浅い立場ではありますが、本団体の活動を通して、薬学生だからこそできる社会との関わり方や、同じ薬学生でありながらも多様な価値観と出会えることを実感しました。 一方で、団体内での交流が一部に偏っていたり、全体としての一体感がやや希薄である現状も感じています。特に、対面の機会が減っている今、会員同士の関係づくりに課題があると感じました。こうした課題に対して、団体の活動歴が浅い私だからこそ持てる「外からの視点」を活かし、より良い団体づくりに貢献したく、副会長への立候補を決意しました。団体のミッションである「薬学生に新しい価値を」「薬学生のプラットフォームを創る」という理念のもと、薬学生がより自由に学び、つながり、成長できる環境づくりに全力で取り組みたいと考えています。 そして、私は、これまでに社会人の方と共に、イベントを運営することで社会人の方とのやりとりの仕方を経験し、3月には自身で団体を立ち上げ、そこで広報や人集めを一から行った経験もあります。この経験から、社会人の方や、外部団体との連携の仕方を学びました。今まで学んだことを活かし、外務理事として、本団体に貢献したいと考えております。また、副会長外務理事という職務を通して、自分自身も成長したいという思いもあり、立候補いたしました。
問題点と改善案	＜問題点＞ 薬学の知識を活かした、薬剤師以外のキャリアを知ることができる機会が少ないこと。 ＜改善案＞ 薬学部を卒業後、薬剤師以外のキャリアを歩んでいる方を招いたイベントを実施したいと考えています。イベントでは、登壇者の講演を聞いた後、登壇者と参加者の間や、参加者同士でディスカッションを行う時間を設けることで、「自分の将来をどう描くか」を考えられるようなイベントにしていきます。このイベントを通し、薬学生一人一人が「薬学を学ぶ意義」や「自分の将来像」をより主体的に考えられる環境をつくっていきます。 ＜問題点＞ スタッフ会員同士の交流が少ないこと。 ＜改善案＞ 月に数回、zoomを利用したオンラインでの交流の場を設けたいと考えています。この場はスタッフ会員であれば、だれでも参加可能であり、途中参加・途中退出も自由な、気楽に立ち寄れる空間とします。 一方で、zoomのブレイクアウトルーム機能を活用することで、交流の場だけでなく、勉強の場などニーズに合わせた活動にも柔軟に対応できるようにします。 こうした土台づくりを通じて、最終的には「団体に関わるすべての薬学生が、気軽に声をかけ合える関係性」を目指します。交流が増えることで、一人一人が団体の一員であるという実感を持ち、活動へのモチベーション向上にもつながると考えています。 ＜問題点＞ スタッフ会員にとって、所属外の部署・委員会の内部事情が不透明であること。 ＜改善案＞ 各部署、各委員会が公開議事録を作成し、スタッフ会員が常に閲覧できる環境を整えていきたいと考えています。公開議事録はGoogleドライブ上で共有し、保存場所を明確にすることで、スタッフ会員がいつでも閲覧可能な状態を保ちます。 一方で、公開議事録の運用にあたって、外部へ情報が漏洩のリスク、各部署・委員会への作成負担の二点が課題として考えられます。これらの課題に対しては、以下のような仕組みで対応いたします。

	まず本部の方で、公開議事録のテンプレートを作成します。普段の議事録から必要事項を複写できる形式とし、記載項目は、「部署・委員会名」、「議題」、「決定事項」といった必要最低限の内容とします。これにより、新たに議事録を作成する手間を減らし、公開用に転記する際に内部に留めたい情報を除外することが可能となります。 また、他部署や他委員会の活動内容を知ることが、組織全体の理解を深めるだけでなく、スタッフ同士の交流促進にもつながると考えています。したがって、この取り組みは、二つ目の問題点で言及したスタッフ会員同士の交流が少ないことの改善にもなると考えています。
活動計画	4月 関係者挨拶、新入生歓迎会、公開議事録のテンプレート作成 5月 薬剤師以外のキャリアを歩む方に連絡を取る 公開議事録の実施 スタッフ会員のオンライン交流の場を随時実施 8月 薬剤師以外のキャリアを歩む方のイベント実施 (地域連携委員会や薬学総合委員会とも連携) スタッフ会員のオンライン交流の場に関するアンケート調査により改善を図る 9月 薬学生ジャンボリー 3月 年会、薬剤師以外のキャリアを歩む方のイベント実施 (通年)メール管理、対外対応、他団体イベントへの参加
所信	私は活動歴が浅いからこそ、外からの視点で団体の魅力も、課題も客観的に見ることができると思います。これを私の長所として、団体に貢献していきたいと考えています。 一方で、私の大きな課題の一つは、まだ団体のすべてを深く理解しているわけではないということです。この課題を乗り越えるために、前副会長からの丁寧な引き継ぎを受けること、そして本部役員の皆さんと積極的にコミュニケーションを取ることを大切にしていきます。また、「わからないことをそのままにしない」という姿勢を常に忘れず、未熟な部分も自ら学びに変えていくことで、自分自身の成長にもつなげながら、団体に貢献していきたいと考えています。 加えて、今まで教育や福祉の分野に関心を持ち、活動してきた経験を生かし、薬学の枠にとられない多様なテーマにも取り組むことで、団体の認知度の向上と、活動の幅を広げたいと考えています。薬学部が6年制になって以降、薬学部に進学したら薬剤師になるのが当たり前という雰囲気が強くなってきています。そんな中で、私は薬学生が薬剤師にとられない自由な職業選択をすることの意義があると感じています。そのため、副会長として、外部とのやりとりをおこなうことで薬学の枠にとられず、多様な分野との接点をつくることにも取り組みます。たとえば、薬剤師の国家資格を持ちながら他の領域で活躍する卒業生のお話を聞く機会を設け、薬学生が自由にキャリアを考えられる土壌を育てていきたいです。私自身、教育や福祉の分野での活動を通して、薬学が多様な形で社会貢献につながることを実感してきました。その経験を活かし、団体の活動の幅をさらに広げていきます。 私は活動歴こそ浅いですが、それを弱みではなく、「外からの新しい視点」として捉え、積極的に行動してまいります。本部役員や会員の皆さんと密にコミュニケーションを取りながら、責任感を持って副会長の職務を全うしていく所存です。